

2021年2月21日主日礼拝

大井バプテスト教会

説教題「なぜわたしはここにいるのか？」マタイ16章13～20節

主任牧師 加藤 誠

「すると、イエスはお答えになった。『シモン、バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの父なのだ。わたしも言ってもおく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府(よみ)の力もこれに対抗できない』(マタイ福音書16章17～18節)。

大谷レニー先生が93歳の生涯を走り終えて神さまの御許に召されました。今朝の聖書箇所のパトロのように、「主イエスこそ、キリスト(救い主)」という告白に貫かれた生涯でした。

レニー先生は、アメリカのミシシッピ州で小麦や綿をつくる農家に生まれました。小学校二年生の時に、お父さんが牧師になる決心を与えられ、農業を辞めて神学校に入ります。農家としての収入を失い、経済的には非常に厳しい中、レニー先生は教会の日曜日の礼拝に通うのが大好きで、聖書の中の聖句探しゲームでは大人よりも早く聖句を見つけ、賛美歌を歌うことが何よりも大好きな少女として育ちました。やがて神学校で教会音楽を学ばれて、1961年3月21日、ちょうど60年前に宣教師として日本に遣わされました。1965年に大井バプテスト教会の音楽主事になられ、同じ年に副牧師となった大谷恵護先生と四年後の1969年に結婚されて、以来52年間、ご夫妻で主に仕え、教会に仕えてこられました。

一昨日、レニー先生にお別れに来られた方がわたしに手紙を手渡されました。その方はレニー先生が大井教会に来られた1965年、「神は愛である」のポスターに導かれて信仰をいただいた方です。そこにはこう書かれていました。「レニー先生は、大井教会を自分のように愛し、大井教会のすべての人を賛美に結びつけた。その指導は力に満ち、迫力はまるで聖霊に助けを求めた勇士のようであった。平時の時はやさしいレニーさんなのに、本気で向かってきたのです」。

「ほんとうにそうだなあ」と思いながら読みました。レニー先生は優しい方でしたが、同時に厳しい方でした。福音を本気で生きて、本気で教会を愛しておられたからです。信仰において一番大切なことを、レニー先生は私たちに伝えてくださいました。レニー先生の語る言葉には、主イエスの命が生きていました。それはレニー先生ご自身が、主イエスの言葉に生かされていたからだと思います。

2月14日夕刻にお訪ねした病室で、レニー先生は口を大きく開けて荒い呼吸をされていました。冷たくなりかけている先生の手をさすりながら話しかけていると、少しずつその呼吸が静かになりました。「呼吸がかなりよわくなっているのもうそろそろかもしれません」という看護師さんの言葉を受けて、恵護先生と弟の弘道さんと三人で賛美歌を歌いました。「いつくしみ深き」「罪ゆるされしこの身をば」

「いつも喜んでいなさい」を歌っている最中、先生は静かに召されていかれました。

93年の生涯の最期の最後まで、レニー先生は凜として、神さまからいただいた命を生き抜き、そして、神さまへの賛美を携えて、天に召されていかれました。

レニー先生はいつも明るい笑顔を見せてくれていましたが、「トイレがわたしの祈りの場所だった」とポツリとこぼされた言葉が心に深く残っています。また恵護先生によると「レニーは辛い時、悲しい時、『いつくしみ深き』を口ずさんでいた」そうです。異国の地で、異文化を生きる人々に囲まれて、人知れずたくさんの方の苦労をされて流された涙があったことだろうと想像します。「なぜわたしはここにいるのか?」「なぜ日本なのですか?」。レニー先生は繰り返し神さまに問うたことでしょう。先生の聖書には「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのだ」というヨハネ 15 章 16 節に赤い線が引かれていました。レニー先生はその涙を神さまの前にもっていき、イエスさまの言葉と賛美歌で受けていられました。賛美歌は日々のさまざまな困難の中、主イエスと共に生きる信仰を励ましてくれます。私たちが下を向いて崩れ落ちそうなときに、神さまの恵みと希望に向かって、天を仰いで生きる力を与えてくれます。このレニー先生を通して、主イエスと共に生きる信仰の賛美歌がたくさん生まれました。その賛美歌は、大井教会だけでなく、日本中の教会で用いられ、主イエスの真実の愛と、慰めと、希望を、今日も私たちに伝え続けてくれています。

今朝のマタイ 16 章は、ペトロのキリスト告白と呼ばれている場面です。人々がイエスのことを「バプテスマのヨハネだ、エリヤだ、エレミヤだ、預言者の一人だ」と語る中で(預言者というのは神に仕える働きとしては最高の賛辞です)、ペトロは「あなたはメシア、生ける神の子です!」と告白しました。いったい何が違うのでしょうか。それは「評価」と「告白」の違いです。主イエスのことを第三者的に評価して語るのと、自分の命、生き方に関わる、わたしの覚悟として語るとの違いです。「イエスという方は、素晴らしい愛の実践者ですね」「聖書の言葉は含蓄がありますね」と語ったとしても、そのような感動はすぐに忘れ去られていきます。それに対してペトロは「イエスさま、あなたはわたしの救いです」と告白しました。「主イエスは道・真理・命を指し示す良い教師」として見るだけでなく、「主イエスは道そのもの、真理そのもの、命そのもの。主イエスなしのわたしの命はない。あなたと共に生きていきます!」と告白したのです。そう告白するペトロに、主イエスは「この告白は天の父が与えてくださる幸いであり、陰府の力、つまり死さえもそれに打ち勝つことはできない!」と宣言されました。

昨日、レニー先生の告別式を執り行いました。私たち大井教会にとって悲しいお別れです。しかしこの時、レニー先生に信仰を与え、主の御言葉を伝える器として、特に賛美の喜びを伝える器としてお召しになり、大いに用いられ生かされた神さまのみわざを覚えたいのです。悲しみで終わるのではなく、レニー先生が大切にされたことを受け取っていきたいのです。レニー先生が何よりも望んでおられたこと。それは、私たち一人ひとりが、死の力にも打ち勝つ信仰に生かされていくことであり、さまざまな困難の中にあって、御言葉と賛美をもって主イエスと共に生きる信仰を生きていくことではないでしょうか。